



営農タイムリー！



病害虫発生予察情報

2023年10月17日発行

★トマトキバガ情報

京都府病害虫防除所より、
発生予察特殊報第1号(トマトキバガ)
が発表されました。(抜粋)

病害虫名	トマトキバガ <i>Tuta absoluta</i> (Meyrick)
発生地域	京都府内

1. 発生経過

- (1) 令和5年9月28日、京都府北部の野菜畑に設置した**トマトキバガ**侵入調査用フェロモントラップに本種と疑われる雄成虫が捕獲された。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼し、府内では未発生の**トマトキバガ**と同定された。
- (2) 10月5日及び6日、京都府南部及び中部に設置したフェロモントラップでも本種の誘殺を認めた。
- (3) 本種は、令和3年に熊本県の施設**トマト**において国内で初めて発生が確認された。以降、令和5年10月11日現在、国内27道県で発生が確認されている。

2. 形態及び生態

- (1) 本種はチョウ目キバガ科に属し、成虫は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である。
- (2) 幼虫は、終齢で体長約8mm。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。
- (3) 年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、地域によって差はあるが、年に10～12世代発生する地域もある。
- (4) 卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。
- (5) 成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうち平均で約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。

3. 被害の特徴

- (1) 主な寄主植物は**トマト**、**ナス**、**ピーマン**、**トウガラシ**、**バレイショ**等のナス科植物で、マメ科植物の**インゲンマメ**も寄主植物として確認されている。
- (2) **トマト**での被害は、茎葉では内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、**幼虫**がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する。

4. 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) **トマトキバガ**の発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に連絡する。
- (3) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (4) 令和5年10月1日現在の**トマトキバガ**に対する登録農薬は表のとおり。なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤の**ローテーション散布**を行う。

<参考文献>

植物防疫所病害虫情報 No.127、農林水産省植物防疫所(2022年7月)



トマトキバガ成虫



誘殺されたトマトキバガ成虫



果実の食害痕



トマトキバガ幼虫

トマトキバガ 登録薬剤

2023.10月 現在

成分系	IRAC コード	薬剤名	作物名	希釈倍数、 使用量	使用時期 / 使用方法	本剤の 使用回数	成分別 総使用回数
スピノシン系	5	ディアナ^{SC}	トマト ミニトマト	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
スピノシン系 物理的防除剤	— 5	ダブルシューターSE [スピノース+脂肪酸グリセリド]	トマト ミニトマト	1000倍	収穫前日まで	2回以内	—:2回以内
アベルメク チン系・ ミルベマイ シン系	6	アグリメック	トマト	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
		アフアーム^{乳剤}	トマト ミニトマト	2000倍	収穫前日まで	5回以内	5回以内
生物農薬	11A	エスマルク^{DF}	トマト ミニトマト	1000倍	発生初期(但し、収穫前日まで)	—	—
ピロール	13	コテツ^{フロアブル}	トマト ミニトマト	2000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
オキサジアジン	22A	トルネドエース^{DF}	トマト	2000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
セミカルバゾン系	22B	アクセル^{フロアブル}	トマト ミニトマト	1000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
ジアミド系	28	フェニックス^{顆粒水和剤}	トマト ミニトマト	2000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内
		ベリマーク^{SC}	トマト ミニトマト	400株あたり25mL / 400株あたり10～20L(1株あたり25～50mL) / 育苗期後半～定植当日 / 灌注	1回	4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)	
		プリロツン^{粒剤} オメガ	トマト ミニトマト	2g/株 / 育苗期後半～定植時 / 株元散布	1回		
		ベネビア^{OD}	トマト ミニトマト	2000倍	収穫前日まで		3回以内
		ヨーバル^{フロアブル}	トマト ミニトマト	2500倍	収穫前日まで		3回以内
メタジアミド系	30	グレーシア^{乳剤}	トマト ミニトマト	2000倍	収穫前日まで		2回以内
ピリダリル	UN	フレオ^{フロアブル}	トマト ミニトマト	1000倍	収穫前日まで	2回以内	2回以内